

中日政府间技术合作项目
安徽省初级卫生保健技术培训中心
联合协调委员会第三次会议议程

2002年12月10日中国·合肥

- 14:55—15:00 场外合影，明珠国际大酒店外
- 15:00—15:05 场内合影，明珠国际大酒店明珠厅
- 15:05—15:15 一、安徽省科技厅厅长唐承沛先生宣布联合协调委员会第三次会议开始，致欢迎词
- 15:15—15:55 二、中期评估报告
- 1) 安徽省卫生厅副厅长权循珍女士介绍项目三年来实施情况及今后的工作
- 16:55—16:35 2) 日方介绍项目中期评估情况
- 16:35—16:50 3) 讨论
- 16:50—17:00 三、项目实施框架(PDM)修订报告
- 1) 日本JICA医疗协力部青木恒宪先生作PDM修订说明
- 17:00—17:05 2) 讨论
- 17:05—17:55 四、领导与来宾讲话(每位约10分钟)
- 1) 安徽省卫生厅副厅长高开焰先生讲话
- 2) 中国国家科技部JICA项目办公室主任阮湘平先生讲话
- 3) 日本国立保健医疗科学院院长小林秀资先生讲话
- 4) 日本JICA中国事务所所长助理芳忍先生讲话
- 5) 日本JICA项目专家组组长福原毅文先生讲话
- 18:00 五、休会



中日合作建设《安徽省初级 卫生保健技术培训中心》项目 中期报告

安徽省衛生廳 权循珍副厅长

前言

中日合作建设“安徽省初级卫生保健技术培训中心”项目自1999年8月1日启动后，在中日双方的共同努力下，3年来项目工作进展顺利，并取得了良好的成效。现做如下介绍：

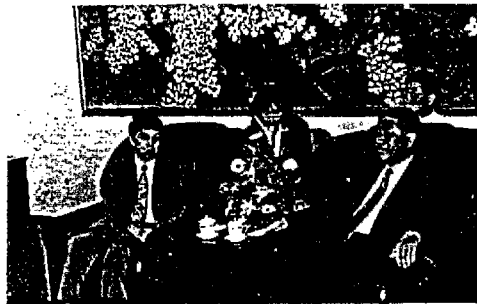
1、 设置安徽省初级卫生保健 项目实施办公室

1.1 建立健全了项目领导组织

- 省政府成立项目领导小组。
 - 组长：蒋作君副省长
 - 副组长和成员：为项目管理和项目实施单位的主要负责人
- 衛生廳成立了项目实施领导小组。
- 培训中心一部、二部和15个分中心也相应成立项目领导小组。



中日双方签署RD协议情形



张平副省长会见日本代表团

1.2 成立了中方和日方专家合署办公的项目办公室

- 根据项目需要,省卫生厅专门抽调对口工作人员与日方长期专家合署办公。
 - 日方人员: 专家组长、协调员和长期专家组成
 - 中方人员:
 - 主任: 权循珍副厅长;
 - 副主任和相关人员包括一部、二部,厅外事办和厅基妇处负责人;并选派对口人员。
- 项目办公室负责项目运营管理、监督和评价等。

2、开发出一套初级卫生保健管理和技术培训教材

2-1 成立教材编写委员会

- 主任委员: 戴光强厅长
- 副主任委员:
 - 卫生厅领导: 权循珍副厅长、高开焰副厅长
 - 一部、二部主任: 胡志和叶宜德教授
 - 日本专家: 曾田研二先生和三桥香女士

2-2 制定教材编写计划

2-3 为编写教材,实施了项目基线调查

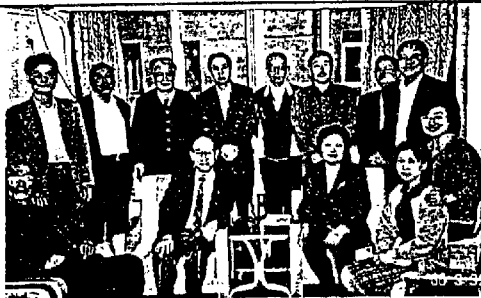
- 项目伊始,对我省45所乡镇卫生院、800所村卫生室、1000多名技术与管理人员培训需求状况进行了基线调查,为教材编写和培训计划提供依据。



项目教材编写工作会议

2-4 成立教材编写小组

- 省级成员
 - 省卫生厅、培训中心一部、二部、各分中心、省立医院、安医大附院、省卫生防疫站、省妇幼保健所、省健康教育所等专家组成
- 地市级专家
- 国家级相关专家
- 日本专家



部分教材编写人员同日本专家合影留念

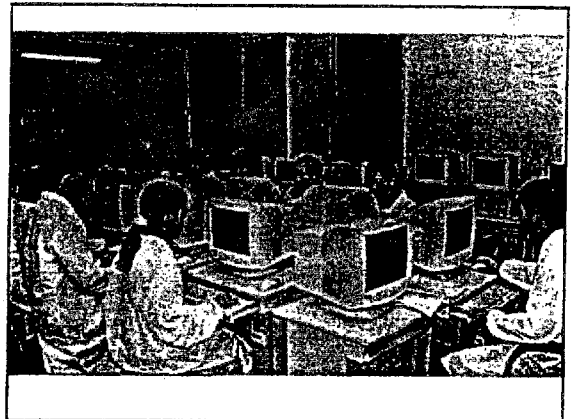
2-6 印刷教材

- 共完成了《初级卫生保健管理》、《农村临床适宜诊疗技术》、《农村预防保健实用技术》、《农村健康教育》四个系列共13个分册印刷工作，印刷总数约4万册。
- 卫生厅扩大了教材的使用范围：作为安徽省农村地区具有初级职称人员的继续再教育的教材，并在全省范围内发行。



4、接受日方项目设备援助

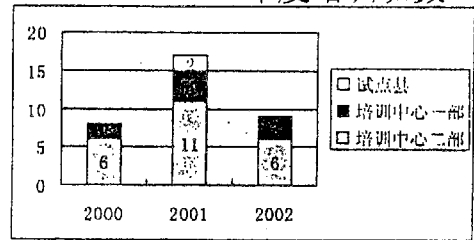
- 三年来，项目援助器材总金额为9000万日元。主要分为4大类：交通工具、教学器材、医疗和办公设备。
- 通过使用援助的电脑、多媒体投影仪、人体急救模型等先进的教学器材，提高了培训效果。
- 项目援助的车辆（含救护车4辆）、医疗设备等在农村使用，扩大了项目的影响。



5、完成一系列项目培训工作

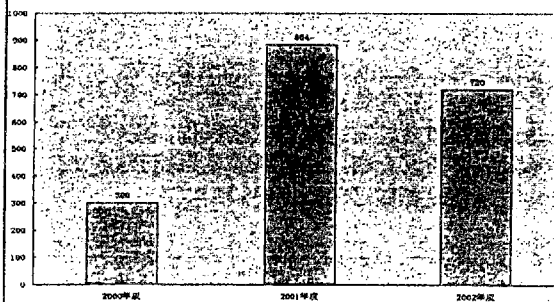
- 项目实施3年来，共培训卫生管理、教学师资、医疗保健技术骨干2000余人。
- 同时，为配合农村卫生改革，在濉溪县、黄山区开展了培训试点工作，200余人参加了培训，取得了良好的效果。

2000~2002年度培训班数

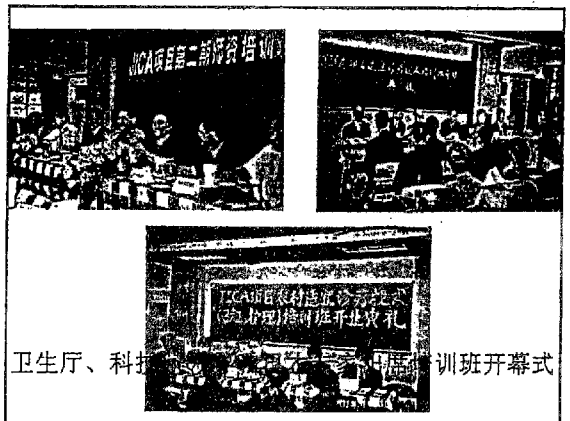


3年来共开展34个班次的培训工作

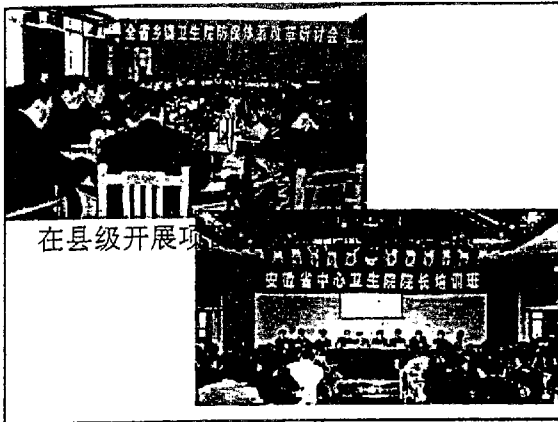
2000~2002年度项目培训人数



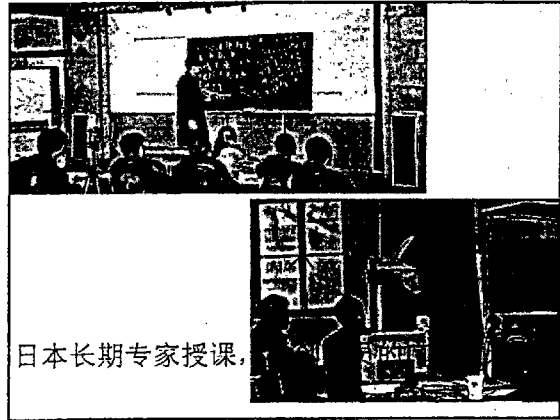
3年项目培训人数超过1900人次



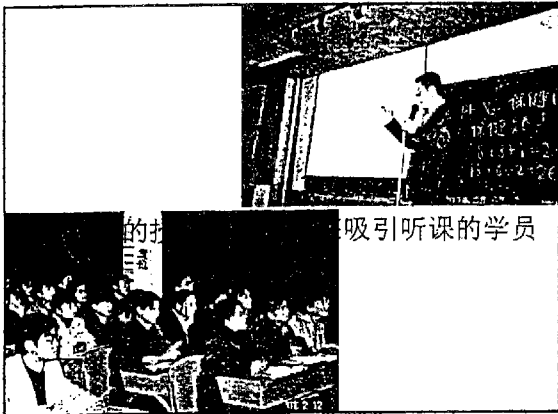
卫生部、科技部、安徽省农村卫生改革试点县培训班开幕式



在县级开展项



日本长期专家授课,



吸引听课的学员



师资班学员同教师和日本专家合影

分中心培训情况

- 培训分中心结合实际工作需要，利用接受省级培训的人员做为师资，进一步对乡村基层的卫生技术人员和管理人员进行培训，总数2万多人，计3.5万人天。
- 培训班多为短期（1-3天），培训形式灵活多样；
- 部分培训班，还聘请上级卫生机构的高级专业人员进行授课。
- 培训教材包括JICA教材、大中专教材、自编材料等，其中JICA教材占50%以上。

6、派遣进修人员赴日研修

- 项目实施以来，共派遣了12名进修员赴日进修，三名人员目前正在进修中。
- 研修员归国后，及时写出研修报告，在不同场合予以介绍。并将研修成果充分运用到项目和自己的工作中。



7、接受日本专家对项目指导和评估

- JICA先后派遣2名业务协调员，4名长期专家在皖指导、管理项目工作。
- 另外还多次接受短期专家（14人次）来院考察、指导、评估项目工作，并为培训班授课。



日本专家现场考察项目工作情况



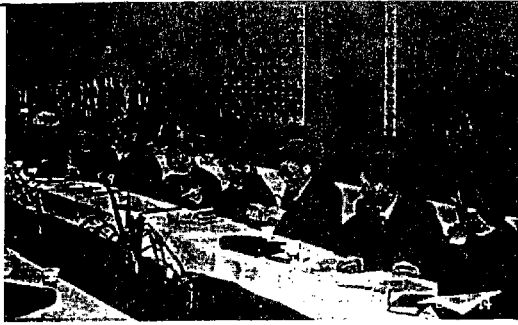
短期专家对项目教材编写提出建议



中日专家制定完成PDM后留影



项目培训评估专家正在听取学员的反馈意见



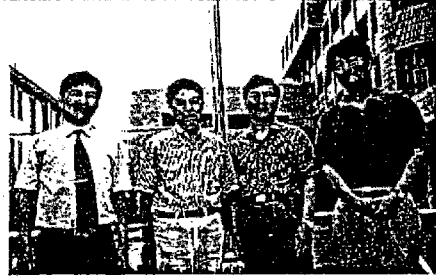
培训评估专家同教师进行交流



长期专家同安徽省卫生防疫站部门专家交流



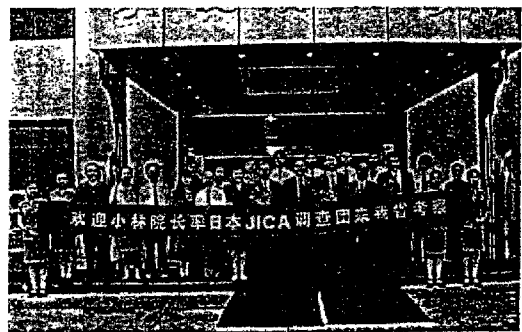
长期专家任期完成回国



新项目组长到任后，考察二部时情形

8、定期召开高级别的联合协调委员会会议

- 每项目年度，日方派遣项目运营调查团来院考察项目实施情况。
- 定期召开项目联合协调委员会会议，日本驻华大使馆、卫生部、科技部等均派官员参加。会议总结项目年度的工作，商讨下年度的工作计划，并签署会谈纪要。





第一次联合协调委员会



出席联合协调委员会的国家科技部、卫生部、科技厅和卫生厅有关领导



蒋作君副省长会见日本专家



省卫生厅一行来我省



中期评估团在肥西分中心听取分中心工作情况汇报

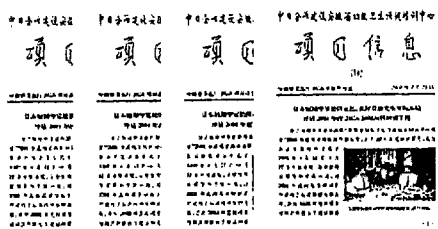
9、组织了卫生管理人员赴日考察初保工作

- 为更好开展项目工作，中方组织代表团一行九人赴日考察。实地了解和学习了日本国的卫生服务体制、医疗保险制度以及地域医疗保健等。考察内容丰富，收获很大。

10、广泛开展项目宣传和交流



日本外务省曾委派电视摄制组采访报道项目实施情况和取得的成果。制作的节目在日本国家电视台的《面向亚太地区的政府公益广告》系列节目中播出



通过定期编辑发行项目信息，及时报道和宣传项目动态、进展、成效等。



日本驻上海领事馆总领事市桥康吉先生听取省政府外事办和卫生厅介绍项目实施情况



JICA中国事务所樱田所长现场考察项目工作

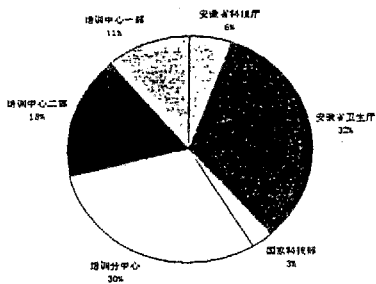
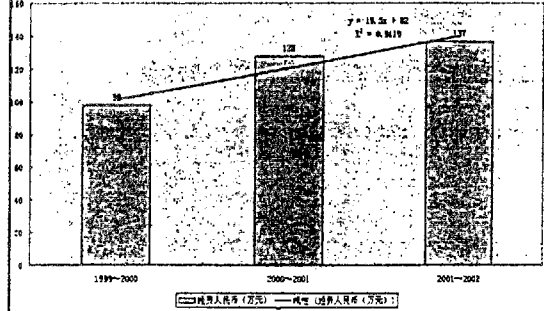


日本高知县研修员归国回访团和高知县行政访问团等先后来皖考察了该项目工作



日本医学生和JICA论文获奖的中国大学生来院参观学习。

中方的项目投入（人民币万元）



中方经费分担情况

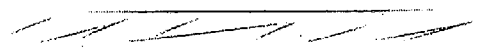
项目的收获

通过项目3年来的合作，使我们深深的感到：

- 在日方JICA派遣的长期和短期专家指导下，以及在中方省科技厅、卫生厅、培训中心一部、二部和15个分中心的领导和老师的共同努力下，项目进展是顺利的、成效是显著的、项目工作是完全按照RD协议和PDM计划实施的

- 该项目提高了我省初保培训工作的水平，改善了教学条件，学到了日本先进的技术和管理经验；通过培训我省卫生管理和技术人员，提高了他们管理和技术水平，促进了我省卫生事业的发展。
- 通过项目加深了中日专家的沟通和交流，增进了相互之间的了解和友谊。
- 项目取得的结果，不仅有利于安徽，对我国其他各省也具有参考意义。

下一步工作初步打算



一、教材编写修改工作

- 以原来的教材为蓝本，以健康教育和健康促进内容为重点；
- 进一步明确教材的使用对象，强调针对性，突出实用性，具有一定系统性，全面性；
- 管理方面的教材要求围绕最新的卫生政策和新的初级卫生保健规划展开；
- 教材编写体例兼顾参与式教学方法的需要；
- 编写的教材尽量做到图文并茂。

二、项目培训工作

- 保证既有的培训方针不变
- 继续进行三类人员的培训班：
 - 管理人员培训班
 - 技术骨干培训班：侧重于培训需要取得助理医师资格人员
 - 师资培训班：防保类内容突出健康教育和健康促进
- 加强培训效果的评估

三、项目器材

- 原则：
 - 有利于项目工作的开展和项目远期目标的实现。
- 2003年度项目器材计划包括：
 - 教学器材
 - 办公器材
 - 配备相应的医疗检诊器材和车辆

四、邀请日本短期专家和派遣赴日研修生

- 2003年度希望日本继续能够派遣有关短期专家来皖指导工作，并接受中方有关人员赴日进行对口进修。

希望和要求

- 增加项目培训经费的支持
- 保证教材修改经费
- 加强项目效果的评估，并给予经费支持
- 在项目结束之前，举办专题研讨会，希望JICA和日方专家给予进一步支持。

• 谢谢！



安徽省衛生庁報告会資料和訳

1) 写真

2) 中日協力「安徽省プライマリーヘルスケア技術訓練センター」プロジェクト中間報告
安徽省衛生庁権循珍副庁長

3) 前言

中日協力「安徽省プライマリーヘルスケア技術訓練センター」プロジェクトは 1999 年 8 月に開始以来、中日双方の共同の努力により、順調に活動を展開し、よい成果を収めている。以下、簡単にプロジェクトの 3 年間の活動を紹介する。

4) 1、プロジェクト管理組織の成立とプロジェクト事務室の設置

5) 1.1 プロジェクト指導組織の設立

○省政府プロジェクト指導グループ

・リーダー：蔣作君副省長

・サブリーダー：省政府王坦副秘書長、省科学技術委員会施偉国主任、省衛生庁戴光強庁長

・メンバー：省財政庁陳先森副庁長、省外事事務室李永勝副主任、衛生庁権循珍副庁長

○衛生庁にプロジェクト実施指導グループを設立、戴光強庁長がリーダー、権循珍副庁長がサブリーダー兼事務室主任に任命される。

○訓練センター一部、二部と 15 支部にもそれぞれプロジェクト指導グループを設立

6) 写真 (R/D 署名式)

7) 写真 (張平副省長と調査団との会見)

8) 1.2 中国側と日本側専門家が共同で仕事をするプロジェクト事務室が成立

○プロジェクトの必要に基づき、省衛生庁はカウンターパートを選抜し、日本側専門家と共同で仕事をすることにした。

日本側：チームリーダー、調整員、長期専門家

中国側：主任＝権循珍副庁長

副主任と関係者＝一部、二部、庁外事弁公室基婦処責任者およびカウンターパート

○プロジェクト事務室はプロジェクト活動の運営管理、監督、評価などを行なう。

9) 2、プライマリーヘルスケア管理および技術訓練教材を開発

10) 2-1 教材編纂委員会の成立

○教材編纂委員会のメンバー

・主任委員：戴光強庁長

・副主任委員

衛生庁リーダー：権循珍副庁長、高開焔副庁長

一部、二部主任：胡志、葉宜徳

日本人専門家：曾田研二、三橋かおり

1 1) 2-2 教材編纂計画の制定

1 2) 2-3 教材編纂のために、プロジェクト基礎調査を実施した

○プロジェクトのはじめに、省内 45 ヶ所の衛生院、800 ヶ所の村衛生室、1000 名あまりの技術者管理者を対象に研修需要について基礎調査を実施した。基礎調査は教材編纂、プロジェクト研修、プロジェクト効果評価などに科学的裏づけを与えることを目的として行なわれた。

1 3) 写真 プロジェクト教材編集会議

1 4) 2-4 教材編纂グループの成立

○省レベルのメンバー

・衛生庁、訓練センター一部、二部、各支部、省立病院、安徽医科大学病院、省衛生防疫站、省母子保健所、省健康教育所などの専門家

○地区市（いくつかの県や市を含む）の専門家

○中央の専門家

○日本人専門家

1 5) 写真 教材編集者と日本人専門家

1 6) 2-6 教材印刷

○『プライマリーヘルスケア管理』、『農村臨床適正診療技術』、『農村予防保健実用技術』、『農村健康教育』の 4 シリーズ 13 冊の印刷を行なった。

○衛生庁は教材の印刷部数を増加した。安徽省農村地区における初級技術者の継続再教育教材として、省内全域に配布し、よい効果と広い影響を与えた。

1 7) 写真（教材）

1 8) 4、日本の設備援助を受けた

○3 年間にわたって、機材総額は 9000 万円に達した。主に、交通機材、教育機材、医療機材、事務機材の 4 分野である。

○援助機材のコンピュータ、投影機、人体救急模型などの機材を活用して、教育効果を上げた。

○プロジェクト援助の車両（救急車を含む）や医療設備は農村で使用されプロジェクトの影響を広げた。

1 9) 写真

2 0) 写真

2 1) プロジェクト研修業務を行なった

○3年間に、衛生管理、教育、保健医療分野の技術者 2000 人あまりの研修を行なった。

○また、農村衛生改革に対応して、__ 溪（スイシー）県、黄山区において試験事業を実施した。200 名あまりが研修に参加し、よい効果を収めた。

2 2) 2000 年度プロジェクト研修状況

3年間に 34 クラスの研修を実施

2 3) 2000-2002 年度研修コース数

3年間に述べ 1900 人あまりを教育

2 4) ~ 2 8) 写真

2 9) 支部研修状況

○支部では実務上の必要と結合し、省（センター）で研修を受けた教師により、村の衛生技術者と管理者に対する研修を実施した。その総数はのべ 2 万人あまり、のべ 3.5 万日/人に達する。

○研修コースは 1 日から 3 日の短期中心で、研修方式は多様であった。

○一部のコースでは、上級衛生機関の高級専門家が講義した。

○JICA 教材、大学・中等専門学校教材、自校作成教材などの研修教材を使った。そのうち JICA 教材は 50% 以上を占めた。

3 0) 6、訪日研修員の派遣

○プロジェクト開始以降、合計 12 人の研修員を日本に派遣し、3 名が現在も研修中である。

○研修員は帰国後、速やかに研修報告を書き、さまざまな場所で紹介している。そして、研修成果を十分にプロジェクトと自分の仕事に発揮している。

3 1) 写真

3 2) 7、日本専門家のプロジェクト指導と評価の受け入れ

○JICA はこれまでに 2 名の業務調整員と、4 名の長期専門家を派遣し、プロジェクトの指導、管理を行なっている。

○また、延べ 14 人の短期専門家を派遣し、調査・指導・評価を行ない、また研修コースでも教えている。

3 3) ~ 4 0) 写真

4 1) 8、定期的に合同調整委員会を開催している

○各年度毎に、日本側はプロジェクト運営指導調査団を派遣し、プロジェクト実施状況を調査している。

○定期的に合同調整委員会を開催し、日本国大使館、衛生部、科技部から担当者が参加している。会議では、年間の総括を行ない、次年度の業務計画を討議し、ミニッツを結ん

でいる。

4 2) 写真

4 3) 写真 第一回合同調整委員会

4 4) 写真 合同調整委員会出席の国家科技部、衛生部、省科技厅、省衛生庁メンバー

4 5) 写真 蔣作君副省長と日本人専門家の会見

4 6) 写真

4 7) 写真 中間評価調査団の肥西支部（衛生学校）における調査

4 8) 9、衛生管理者を日本に派遣し PHC の視察を行なった

○よりよくプロジェクトの仕事を進めるように、戴光強庁長が衛生管理代表団 1 行 9 人を率いて訪日視察を行なった。現場で日本の衛生サービス体制・医療保険制度および地域保健医療などを学習した。視察内容は豊富で、収穫は大きかった。

4 9) 10、ひろくプロジェクトの宣伝と交流を展開した

5 0) 写真 日本外務省がテレビクルーを派遣してプロジェクトの実施状況と成果の取材を行なった。製作した番組は日本の NHK の『アジア太平洋地区に向けた政府公益広報』シリーズの番組として放送された。

5 1) 写真 定期的にプロジェクト情報を発行し、プロジェクトの動向・進捗・成果などを広報している。

5 2) 写真 日本上海領事館の市橋康吉総領事が省政府外事弁公室と衛生庁のプロジェクト実施状況報告を聴く

5 3) 写真 JICA 中国事務所桜田所長がプロジェクト現場を視察

5 4) 写真 高知県研修員帰国再訪団、高知県行政訪問団などがプロジェクト活動の視察に訪れた。

5 5) 写真 日本の医学生と JICA 論文省を受賞した中国の大学生がプロジェクト見学

5 6) グラフ 中国側の投入

5 7) グラフ

5 8) プロジェクトの成果

3 年間の協力を通じて、次のことを深く感じた：

○JICA 派遣の長期、短期専門家の指導により、また科技厅、衛生庁、センター一部、二部と 15 支部のリーダーと教師の努力により、プロジェクトは順調に進行し、大きな成果を獲得した。プロジェクトは R/D と PDM に沿って行なわれた。

5 9) ○このプロジェクトは本省のプライマリーヘルスケア研修技術を向上させた。日本の進んだ技術と管理を学んだ。研修を通じて本省のプライマリーヘルスケア管理者と技術者のレベルが向上し、本省の衛生事業の発展を促進した。

- 中日専門家の交流を促進し、中日両国人民の理解と友好を深めた。
- プロジェクトの成果は、安徽省にとって役立つのみならず、他の省に対しても参考となるものである。
- 6 0) これからの事業について
- 6 1) 一、教材改訂事業
 - 初版をもとに、健康教育と健康促進の内容を重点とする。
 - 教材の仕様対象を一層明確にし、実用的、系統的な教材を目指す。
 - 管理分野の教材について最新衛生政策と新しいプライマリーヘルスケア計画を盛り込む。
 - 教材編集に当たっては参加型教育に対応できる者とする。
 - 編集に当たっては多くの図版を盛り込む。
- 6 2) 研修事業
 - これまでの研修方針を変えない
 - 引き続き3種類の対象向けの研修を行なう
 - 管理者研修コース
 - 中堅技術者研修コース：助理医師資格受験者のニーズに答えるようにする
 - 教員研修コース：伝染病予防と母子保健の分野では健康教育と健康促進の内容を盛り込む
 - 研修効果の評価をしっかりと行なう
- 6 3) プロジェクト機材
 - 原則：プロジェクトの実施と上位目標の達成に役立つ物
 - 2003年度の機材計画
 - 教育機材
 - 事務機材
 - 検診設備を備えた車両
- 6 4) 短期専門家招聘と研修員派遣
 - 2003年度は引き続き短期専門家の派遣を希望する。また、研修員を受け入れてもらうことを希望する。
- 6 5) 要望
 - プロジェクト研修経費の増額
 - 教材改訂経費の確保
 - プロジェクト効果評価の強化および経費支援
 - プロジェクト終了前に、セミナーを開催するので、JICAと専門家のご支援をお願いしたい。